

第26期入学予定者対象

# 「合同企業面接会」開く

学費は会社負担、安心できる職場を紹介

東京建築カレッジ（以下カレッジ）は10月7日、けんせつプラザ東京で、来春入学予定者のうち求職中の5人を対象に「合同企業面接会」を開きました。カレッジ通学を保障する就職先を紹介するために前年度から実施しているもので、カレッジ無料職業紹介所に登録する企業のうち8社の参加で行われました。

参加企業は、相羽建設（東村山市）、川津工務店（世田谷区）、坂牧工務店（町田市）、大和工務店（江戸川区）、東京ハウス・東京ビルド（渋谷区）、ヒサハウス（埼玉県八潮市）、藤本工務店（板橋区）、YAZAWA LUMBER（立川市）。



高校生に現場の流れを丁寧に説明する参加企業（左は川津工務店 川津康太社長）

は、フォレスト西川のプレカット工場、大河原木材のモデルハウス、ストックヤード、原木市場などを見学していきますが、今年は特別な見学先が加わりました。木の建築の豊かな可能性をアピ



大河原木材のモデルハウスを解説する宮内一利さん

# 木の建築には未来がある

## 担うのは私たち！

1年生の授業から

第25期生(1年生)飯能研修



細部のこだわりを説明するフォレスト西川の大河原章吉会長（飯能商工会館）

東京建築カレッジは、木造建築を重視したカリキュラムを組んでおり、国内の森林資源の豊かさ、木の生育や製材・加工、流通、木の性質を生かす建築のあり方も学びます。1年次の「飯能・秩父宿泊研修」、2年次の「林業研修」をその軸に位置付けています。今年の「飯能・秩

父宿泊研修」はコロナ禍のため宿泊と2日目の秩父の行程を中止、10月9日に日帰りで飯能を巡りました。埼玉県西南部を産地とする木材を西川材と呼びます。その中心は飯能市で、製材流通業が歴史的に形成されてきました。毎年の研修ではフォレスト西川のプレカット工場、大河原木材のモデルハウス、ストックヤード、原木市場などを見学していきますが、今年は特別な見学先が加わりました。木の建築の豊かな可能性をアピ



壁面の構造材（飯能商工会館）

ルする飯能商工会館です（今年3月完成）。CLT（直交集成板）パネルを部分的に取り入れつつ、無垢のスギやヒノキも存在感たっぷり使用。新旧木質構造技術の融合が注目されています。

一方、大河原木材のモデルハウスでは施工を手掛けた宮一技工（埼玉県東松山市）の宮内一利棟梁の話に刺激を受けました。大工としての成長を目指す研修生は「木の良さを木に触れることで気づかせてくれる家だ」、「手わざによって人に感銘を与えるような家づくりに真剣に取り組みたい」と感想レポートに記していました。

### 当面の募集日程

- ◆ 学校説明会 11月24日（火） 午後2時～7時 池袋校舎
- ◆ 応募締切 12月3日（木）
- ◆ 入学選考 12月8日（火） 午前9時半～

入学案内・募集要項はこちらに！

お問い合わせはお気軽に！



学校公式サイトのアクセス

# カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学大歓迎！

TEL 03 (5950) 1771

# 「四方転び踏み台」づくりに挑戦

2年生の授業から

第24期生  
(2年生)  
の授業は、  
コロナ禍に  
より奈良宿

泊研修が中止になりましたが、様々な課題が大詰めを迎えています。あと5ヶ月のカレッジ生活を悔いなく過ごそうと、研修生たちは懸命に学習課題に取り組んでいます。

実技実習の規矩(きく)術演習は「朝顔箱」「風呂イス」を終えて「四方転び踏み台」づくり



に挑戦しました。今の施工現場はプレカット材の組み立てが作業の中心なので、現寸図作成から始めて、墨付け・刻みを自分の手で行う経験はとても貴重です。理論と作業手順を学び、練習を重ねれば、誰もが完成させることができます。作業を通して道具を常に最良の状態にしておくことの大切さも学びます。11月からは「技能照査・実技試験」の課題である「棒隅木」の学習が本格化します。

←完成まであともう少し

一方、10〜12月には測量実習も行います。様々な測量方法について理論と実地体験の双方で授業は進んでいきます。また、12月上旬には、スウェーデン式サウンドデザイン試験が体験できる地盤調査の授業も行われます。

1年次の「間取り」の学習から開始し

## 視野を広げる教養科目も充実

東京建築カレッジは、建築の夢とやりがいを見つけるための教養科目も充実しています。今年の1年次の「建築社会論・倫理」は、新たに、建築エコノミストの森山高至さん、銭湯の設計で有名な今井健太郎さんが講師陣に加わりました。

10月22日には世田谷区で設計事務所を主宰する鈴木陽子さんにコミュニティデザインづくりに積極的に関わってきた経験や気づきを語っていただきました。「原風景」「中間領域」「インクルージョン(社会的包摂)」など聞きなれない用語がたくさん出されましたが、鎌倉・材木座での古民家再生や世田谷区における居場所づくりなど具体的な事例を交えたわかりやすい話を研修生たちは集中して聞いていました。「すべての人を一人の人間としてありのままに受け入れて排除はしない地域社会づくりに建築はどう関わっていけるのか」。投げかけたテーマは重く深いものです。しかし、鈴木さんの快活なお話のおかげで研修生の問題関心を大いに刺激することができました。



上写真：「建築測量実習」(池袋本町公園)  
左写真：設計の意図を各自説明(住宅自由設計授業)



た住宅自由設計は、50分の1サイズの模型の作成・発表に到達しました。敷地条件の制約を受けながら、住み手にとつて最良の住宅を各自が創造する授業です。

## ミニニュース

### 本校指導員も出演、東京都「ものづくり・匠の技の祭典2020」

伝統と革新  
ものづくり・匠の技の祭典 2020  
Monozukuri - A Celebration of Japanese Artisans' Techniques

11.3(火)・4(水) 10:00~17:00 オンライン開催



東京都は11月3~4日、伝統的な匠の技やものづくりの技能・技術の魅力を発信する「ものづくり・匠の技の祭典2020」を開催します。

2016年度から毎年開催しているイベントで、今年は感染拡大予防のためオンラインで開催することになりました。本校の母体、東京土建一般労働組合が加盟する「全国建設労働組合総連合」(全建総連)東京都連合会が出演。東京建築カレッジの「実技実習」指導員の先生方が「金輪継手(かなわつぎて)」の製作実演や伝統的な大工道具の解説で参加します。



「ものづくり・匠の技 ONLINE」  
<https://www.monozukuri-takumi-expo.tokyo/>

当日はこちらからご覧ください。

11月4日(水) 12:20~12:50

「建築大工の匠の技が発揮される仕口の雌雄仕上げ工法」